

2026 年度 第 1 回土木学会 原子力土木委員会
議事録（案）

1. 日時：2026 年 7 月 23 日（木）14:00-17:00
 2. 開催形式：土木学会 E+F 会議室+Teams ミーティング
 3. 出席者（委員および委員兼幹事）： 大鳥，天野，糸井，飯塚，井下，河井，斉藤，
酒井（俊），清水，佃，鶴巻，中村（隼），中村（晋），浜田，三島，渡辺，
佐藤（清），富尾，米山，高橋，森
（顧問）池谷
- 出席者（幹事）： 中島，両角，和仁，稲垣，澤田，吉井，鶴留
- 出席者（常時参加者）： 松村，木原，角田

配布資料

資料番号	資料名
資料 26-1-01	委員名簿（令和 8 年度 [7 月時点]）
資料 26-1-02	2025 年度第 2 回原子力土木委員会議事録案
資料 26-1-03-1	原子力土木委員会_2025 活動度評価結果報告文
資料 26-1-03-2	原子力土木委員会 2025 年度会計報告
資料 26-1-04	原子力土木委員会 2026 年度方針
資料 26-1-05-1	技術文書審議タスクの制度変更骨子案
資料 26-1-05-2	【対比表】成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規
資料 26-1-05-3	【改訂案】成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規
資料 26-1-05-4	【対比表】技術文書審議タスク細則
資料 26-1-05-5	【改訂案】技術文書審議タスク細則
資料 26-1-05-6	技術議論・審議体制の妥当性チェックシート案
資料 26-1-06-1	津波漂流物技術資料 技術資料審査経緯
資料 26-1-06-2	津波漂流物技術資料 外部意見照会コメントの対応表
資料 26-1-07	令和 8 年度土木学会全国大会における研究討論会
資料 26-1-08	第Ⅷ分野（分野横断）の活動状況報告及びご相談
資料 26-1-09-1	津波評価小委員会 活動報告
資料 26-1-09-2	2026 年 4 月三陸沖地震による津波に関する話題提供
資料 26-1-10-1	リスコミ小委員会 報告書の修正について
資料 26-1-10-2	リスコミ小委員会 報告書
資料 26-1-11-1	原子力防災小委員会 活動報告
資料 26-1-11-2	原子力防災小委員会 期間延長申請

資料 26-1-12	地震工学委員会との合同小委員会終了報告
資料 26-1-13	年間スケジュール

4. 議題

14:00-17:00 委員会（主な説明者）

- 0) 開会挨拶（大鳥委員長）
- 1) 令和7年度土木学会功績賞の受賞ご紹介（大鳥委員長）
- 2) 新任委員のご紹介（大鳥委員長）
- 3) 前回委員会（2025/12/26 開催）議事録の確認（中島幹事長）
- 4) 原子力土木委員会 2025 年度活動評価結果・会計報告（中島幹事長）
- 5) 原子力土木委員会 2026 年度方針（大鳥委員長）
- 6) 技術文書審議タスク制度改正（糸井副委員長）
- 7) 津波漂流物技術資料の審査経緯説明・最終版審議（澤田幹事）
- 8) 令和8年度土木学会全国大会における研究討論会（佐藤幹事）
- 9) 第Ⅷ分野（分野横断）の活動状況報告及びご相談（冨尾幹事）
- 10) 小委員会からの活動報告／終了報告（津波小委幹事長・リスク小委幹事長・原子力防災小委幹事）
- 11) 原子力防災小委員会の期間延長申請（原子力防災小委幹事）
- 12) 地震工学委員会との合同小委員会終了報告（中村先生）
- 13) 原子力土木委員会主催セミナー開催に向けて（中島幹事長）
- 14) 年間スケジュールの確認（鶴留幹事）
- 15) 閉会挨拶（糸井副委員長・天野副委員長）

5. 議事録

- 0) 開会挨拶（大鳥委員長）

大鳥委員長より開会の挨拶があった。酷暑が続く中で委員会に参加いただいたことへの謝意が述べられるとともに、「Cool Head and Warm Heart」の姿勢のもと、冷静かつ建設的な議論をお願いしたい旨の発言があった。また、原子力土木委員会として、引き続き技術的課題への対応と社会への説明責任を果たしていくことの重要性が共有された。

- 1) 令和7年度土木学会功績賞受賞紹介

大鳥委員長より、中村晋委員（日本大学）が令和7年度土木学会功績賞を受賞したことが紹介された。地震工学分野における研究業績に加え、原子力土木委員会委員長としての委員会運営および技術文書審議制度整備への貢献が評価されたものである

ことが説明された。また、中村委員より受賞に対する謝意とともに、委員会のさらなる発展への期待が述べられた。

2) 新任委員紹介

大島委員長より、委員および常時参加者の異動について紹介があった。新任委員および新任常時参加者から挨拶があり、今後の委員会活動への協力をお願いしたい旨の説明があった。

3) 前回委員会（2025/12/26 開催）議事録の確認

中島幹事長より資料 26-1-02 に基づき、前回（2025 年度第 2 回原子力土木委員会）議事録の内容について説明があった。内容に特段の異議はなく、前回議事録は承認された。また、前回より鶴留幹事により生成 AI を活用した議事録作成が志向されており、今後も議事録の分かりやすさと作成効率の向上に向けて継続的に改善を図ることが共有された。

4) 2025 年度活動評価結果・会計報告

中島幹事長より資料 26-1-03-1, 03-2 に基づき説明があり、活動評価結果および会計報告は承認された。あわせて、委員会活動のさらなる活性化や人材育成に向けた取組を継続していくことの重要性が共有された。

5) 2026 年度方針

大島委員長より資料 26-1-04 に基づき説明があった。委員会として、「福島第一原子力発電所事故後の安全基準向上への寄与」、「新しい規制基準や技術基準への対応」、「人材育成と技術継承」および「新たな課題発掘・技術支援」を引き続き重点的に取り組む方針が示された。また、産官学の関係者が積極的に参画し、活発な議論や情報発信を行える委員会を目指す考えが共有された。さらに、生成 AI 等の新技術や新型炉・革新炉に関する技術動向も視野に入れながら活動の活性化を図るとともに、原子力土木の主要分野における継続的な研究活動の推進や次世代人材の育成を通じて技術継承を着実に進めていくことの重要性が共有された。あわせて、アーリーキャリア層への支援、委員の新陳代謝およびコンサルタント分野からの参画拡大等についても今後検討していく方針が示された。

6) 技術文書審議タスク制度改正

糸井副委員長より資料 26-1-05-1～05-6 に基づき説明があった。技術文書審議タスクについて、客観性・透明性のさらなる確保および持続可能な委員会運営を目的として、技術内容の審議を小委員会または WG で実施し、タスクは審議体制や手続き等の

妥当性を確認するプロセス監査型へ移行する制度改正案が提案された。審議プロセスのトレーサビリティ向上や多様な専門性の確保等について議論が行われ、制度改正の基本方針は了承された。今後、委員会での意見を反映したうえで改訂案の最終化を進めることとなった。

7) 津波漂流物技術資料

澤田幹事より資料 26-1-06-1, 06-2 に基づき、津波漂流物技術資料の最終版および審議経過について説明があった。外部意見照会結果への対応状況が報告され、技術資料最終版について確認が行われた。審議の結果、技術資料最終版は承認された。今後は、講習会の開催および資料公開を進めることとした。

8) 令和 8 年度全国大会研究討論会

佐藤幹事より資料 26-1-07 に基づき説明があった。令和 8 年度については適切なテーマ提案がなかったことから研究討論会は開催せず、令和 9 年度開催に向けた準備期間とする方針が報告された。また、原子力土木分野を取り巻く新たな課題や社会的関心事項も踏まえながら、今後のテーマ設定について検討を進めていくことが共有された。

9) 第Ⅷ分野活動報告

富尾幹事より資料 26-1-08 に基づき活動状況が報告された。委員会横断での共通課題への対応や他分野との連携強化に向けた活動状況が共有されるとともに、今後の活動の方向性や情報発信のあり方について意見交換が行われ、分野横断的な連携を推進していくことの重要性が共有された。

10) 小委員会活動報告

各小委員会より活動報告が行われた。

(1) 津波評価小委員会

津波評価小委員会より資料 26-1-09-1, 09-2 に基づき活動報告が行われた。津波漂流物技術資料の作成および講習会開催に向けた準備状況について報告があった。また、泊発電所見学会の実施状況に加え、2026 年 4 月三陸沖地震による津波に関する話題提供が行われ、最新の知見について情報共有がなされた。

(2) リスクコミュニケーション小委員会

リスクコミュニケーション小委員会より資料 26-1-10-1, 10-2 に基づき活動報告が行われた。これまでの活動成果を取りまとめた報告書について修正内容の説明があり、報告書の内容についてもあらためて概要の説明があった。審議の結果、一部の誤字修正の上、報告書は承認された。

(3) 原子力防災小委員会

原子力防災小委員会より資料 26-1-11-1 に基づき活動報告が行われた。複合災害下における原子力防災・避難課題に関する技術資料の作成状況および公開イベントの計画について説明があり、今後の取りまとめに向けたスケジュールや活動方針が共有された。

11) 原子力防災小委員会期間延長

原子力防災小委員会より資料 26-1-11-2 に基づき活動期間延長について説明があった。技術資料の取りまとめおよび公開イベントの実施のため、活動期間を 1 年間延長する必要があるとの提案がなされた。審議の結果、活動期間を 1 年間延長することが承認された。なお、活動期間延長に関連して予算面に関する意見があり、引き続き整理することとなった。

12) 地震工学委員会との合同小委員会終了報告

中村委員より資料 26-1-12 に基づき報告があった。「地盤の過剰間隙水圧上昇とそれに伴う変形の評価ガイドライン」の取りまとめ状況および今後の公表方針について説明が行われた。また、地震工学委員会との連携のもとで進めてきた活動が完了し、一定の成果を得て終了したことが報告された。なお、技術文書審議タスクへの付議要否等については、今後整理することとなった。

13) 原子力土木委員会主催セミナー開催に向けて

中島幹事長より説明があった。若手技術者を対象とした技術継承セミナーおよび上級者向けセミナーを中心に企画を進める方針が共有された。また、人材育成や技術継承の観点から、幅広い分野からの参加促進や実務に直結するテーマ設定の重要性が共有された。

14) 年間スケジュール

鶴留幹事より資料 26-1-13 に基づき説明があった。年間スケジュール、講習会・セミナー等の予定および次回委員会の日程について確認した。次回（2026 年度第 2 回）原子力土木委員会は 12 月に開催予定であることが共有された。

15) 閉会挨拶

糸井副委員長および天野副委員長より閉会の挨拶があった。技術文書審議制度の見直し、人材育成・技術継承および津波・防災分野への継続的な取組の重要性が改めて共有されるとともに、分野横断的な連携や社会への情報発信を通じて原子力土木委員会の活動をさらに発展させていくことへの期待が述べられた。

以 上